



# 芝小だより

## 第二月号

発行所 港区立芝小学校  
〒105-0014  
港区芝2-21-3  
TEL:03-3456-3072  
FAX:03-3456-3071



### 次なるステップの前に

校長 齋藤 幸之介

寒さが一層厳しくなる中、降雨の日も何日か見られるようになりました。「大気が安定していない」とも考えられますが、これは季節の変わり目、と捉えることもできます。「冬来たりなば、春遠からじ」、来たるべき次の季節が近くに迫っているのでしょうか。

緊急事態宣言下ではありませんが、お陰様をもちまして、子供たちは日々元気に登校をしています。また、条件は限られますが、多様な活動を組み入れて子供たちの意欲を高め、実感を伴った理解を目指しています。

今学期当初、どの学級でも、目標を立てる際には「次の学年」を目指した内容になるように促しています。特に、六年生は、中学校への進学を念頭に置いて考えるように指導しました。私共も、未来に巣立っていく姿に期待をしています。

本屋に行く、子供たちの今後を示唆するタイトルの本を見付けることが多くなったように思います。

「ここ数年で言えば、やはり「君たちはどう生きるか」(吉野源三郎著、岩波文庫)でしょうか。

### 異なる時代から学ぶ「指標」を求めて

今から八〇年以上も前に書かれた書物にも、今にも生きる内容が示されている、という「とたとえ捉えることができる」こと。また、「変化の激しい」と言われる世の中に、正直生きにくさを感じている若人が多くいるのかもかもしれません。

主人公のコペル君が、様々なことを感じ、考え、また悩み、模索する姿からは、時々胸が苦しくなるほどの真剣さを感じ

られます。コペル君が「粉ミルク」から考えついた「人間の結び付き」は、一つの事象になかなかその姿や存在を見ることはできませんが、密接につながっている、という気付きであり、このことは、例えば現在の社会科学習に見られる消費者と生産者、輸送に関わる人々と重なる、と考えながら読むことができます。また、友達と固く誓った友情を、コペル君が「勇気」を奮えずに壊してしまった、と捉えて自身を「裏切者」と責めたり、悩んだ挙句に友達にお詫びの手紙を出してその後にもまた友達がコペル君のところに現れたりする様子も描かれています。

時代は異なりますが、今も残る若者だから体験できる様々な場面は読み手の涙をも誘います。ちょうど中学校生活を描いたその内容は、子供たちの指標になるのかもしれない。

### これから学ぶために大切にしたい姿

また、書店には「〇〇歳からの口〇学」などというタイトルの本も見られます。例えば、子供たちにとっては少し先の話になるのかもしれないが、「一四歳からの社会学」(宮台真司著、ちくま文庫)という作品もあります。かつてはテレビの討論番組によく出演されていた宮台先生は、様々なフィールドワークを行い、若者の特性を始めとしながら社会のあり方を分析し、私共に様々な考えを伝えていきます。例えば、ものが起こるのは、人間の「意思」によるものであるが、人間一人一人は社会の中で育つので、この意思も社会の中で育成される、ということ。改めて社会の意味や大切さを考えることにもなるでしょう。

私に最も強く印象に残ったのは、「感染動機」、という言葉です。宮台先生は、学ぶ動機に、勝つ喜びに向かう「競争動機」、自分の力で解けた、につながる「理解動機」がある

が、これらでは十分ではない、と言います。「直感で「スゴイ」と思う人がいて、その人のそばに行くと「感染」してしまい、身振りや手振りやしやべり方までまねしてしまう」という学ぶことが身になる、と宮台先生は言います。宮台先生は、「知識を血肉化させる」と、自分のものになる学びのあり方を示してもいます。教育は出会いである、という言葉もありますが、その出会いからどういった学びをしていくか、が子供たちの今後の学びなのではないでしょうか。

また、宮台先生は、人間が「試行錯誤できる」(自由)↓それを他者が認めてくれる(承認)↓だから失敗しても大丈夫だ(尊厳)の繰り返しを人間を社会的に成長させる、と述べ、人が自由に幸せになるためのメカニズムとして示しています。このような環境で学ぶ姿を願う次第です。

私は、後日配布される「道徳授業地区公開講座 授業参観のしおり」に、吉野一徳先生の「ほんとうの道徳」(トランズビュー)を参考にさせていただいて巻頭言を書いておりますが、吉野先生はここで、社会を「他者の「自由」を侵害しないかぎり、誰もが自分の「自由」な生き方、「自由」な価値観を追求できる」ところ、とされています。変化が激しく、また多様な価値観故にこれから生きていく子供たちには様々な苦労もあるであろう、と思います。しかし、このような場面に出会ったときには、自分が、社会の中で、何をどのように追求していくのかを模索していかなければならぬでしょう。その際には、書物に自分なりの根拠を求め、友達と共に歩み、「スゴイ」と思える人と出会い、価値ある体験を繰り返して、自分らしさを見出しつつしながら前進していくてほしい、と願っています。